

全体討議

○丸山 スニーラット先生、どうもありがとうございました。こちらのタイのお話についても、私たちにとって新しいことがたくさんあったと思います。貴重な時間、機会ですので、ご質問お願いできればと思います。いかがでしょうか。

○数野 立教大学日本語教育センターの数野と申します。今日はありがとうございました。最後に大学に入学する、留学のお話があったんですけども、タイではやはり、英語が流ちょうにできる学生が日本に留学するというケースが多いのでしょうか。

○スニーラット そうですね、やはりそれぞれの大学がPRしている方法にもよります。例えばAPUだと、日本語能力は必要ない。だから英語力で入っていくんですね。だから理系でも、文系でも、両方行けます。

○数野 そういう学生たちは、特に日本語を勉強したかどうかにかかわらず、日本に行ってみたいという気持ちで、英語で勉強できるから、じゃあ日本の大学に行こうと思うということですね。

○スニーラット そうですね。もし高校で日本語を勉強している場合は、まあ、生活には困らないんじゃないかと、もっと自信を持って行けます。

○数野 ありがとうございます。

○丸山 ほかにいかがでしょうか。

○嶋原 日本語教育センターの嶋原です。貴重な情報をありがとうございました。タイの若者の日本留学志向のスライドについてなんですけど、留学したい、留学を希望する学生と希望しない学生の割合と、特に日本語能力の高さは関係ないというお話だったんですけど、日本に留学したくない理由として、自分の学力が足りないとか、日本語に向いていないと答えた学生もいますが、そういった学生の中には、実は日本語はすごく上手な学生がいますでしょうか。

○スニーラット 勉強している高校生がいます。

○嶋原 上手だけど自信がないだけとか、そういう学生もいるんでしょうか。

○スニーラット 最近の学校は、やはり校長先生の力にもよるところが大きいです。タイは高校と中学校を分けていない学校が多いですね。だから中学生には、選択科目として「こはる」の教科書を週に1回やらせます。高校の場合は、「あきこ」を週6時間ぐらいやって、選択科目、理系も勉強します。だから割とみ

んな日本語、文字とか簡単な会話がわかっていて、自分が向いていないとか、向いていると判断しています。そういう場合は、この6人は、私が見たのは、日本語を専攻している学生です。だから結構、1クラス50人ですよ。入試受けて、日本語さようならという学生もいっぱいいます。

○嶋原 なるほど。ありがとうございます。

○丸山 いかがでしょうか。はい。

○池田 APUとか東京国際大学にタイの学生さんがたくさん行っているというお話だったんですけど、タイの高校生で、将来日本の大学に、もし可能性があるなら行きたいと思っている生徒さんたちは、主にどこで日本の大学についての情報を集めるのかということと、例えば日本の大学が個別の高校に、自分の大学の説明をさせてほしいというふうに直接行ったら、させてもらえるものなのかという、その2点を教えてください。

○スニーラット 先ほどご紹介した、このジャパンエキスポですけれども、エデュケーションゾーンのところに、日本の大学だけではなくて、日本語学校とか、専門学校とか、何ですか、ブースを出して、自分の学校をどんなことなのか、いろいろ一生懸命説明しています。このジャパンエキスポのほかに、年に3、4回ぐらい、こういうイベントがあります。だから結構、バンコクに住んでいる高校生とか若者は、日本へ留学したければ、こういうところに来ます。日本だけではなくて、先週は英国、イギリス留学フェアとか、ニュージーランド留学フェア、オーストラリア留学フェア、いろいろな国の情報があります。また、学校に直接情報を送ってもいいんですけども、きのうも丸山先生にお話ししたんですけども、例えば高校生、立教大学のように附属校がある場合は、高校生の交流活動を通して、立教大学のことをPRしたらどうかと思います。高校では、なかなか、こういう日本の高校と交流する機会が少ないので、例えば3日間でも、4日間でも、両方、こっちの高校生を連れて行って、日本語を使ってもいいし、英語を使ってもいいし、交流しながら、こっちの大学の情報も一緒にPRしたら、そのほうが受けやすいと思います。

○池田 こちらから行くのが、立教大学の学生でも大丈夫ですか。何か、立教大学の学生がタイの高校に行って、タイの高校生と交流をして。

○スニーラット でもいいですけども、でも大学生だと1年生くらいがいいでしょうか。

○池田 そう、1年生ぐらい。あんまり大人じゃないほうがいいということですね。

○スニーラット ええ、ええ。1年生だったら大丈夫だと思います。あんまり高学年だと、何か、やっぱり差が出てしまいます。

○丸山 ほかにいかがでしょうか。はい。ありがとうございます。

○樋口 立教大学職員の樋口です。今日はありがとうございました。タイでは大学受験の際に、第二外国語として日本語を選んでいる学生が4番目に多いということに、個人的に驚いたのですが、大学受験のときに求められる第二外国語としての日本語は、どのようなレベルが求められるのか、教えてください。

○スニーラット 初級日本語修了程度のレベルです。日本語の学習者の数が多いですけれども、やはり初級レベルに集中しています。大体初級のところ、N5、N4、N3がこんなピラミッドになっていて、N2、N1はまだまだ少ないです。やはり日本語は難しいから、勉強すればするほど難しくなるので、やめてしまいます。大学の場合は、私のところは、やはり出るときN2を取ってほしいですね。最近、N2、N1を取っている学生も結構いますので。ほかのところはN3とか、大学でもN3の場合もあります。だから、例えば交換留学とか、いろいろな日本でやりたいときに、自分の日本語能力を証明できるもの、能力試験の結果とか、それを出さないといけませんね。つまり同じ大学の人でも、能力が違う場合もあります。

○丸山 ほかにいかがでしょうか。はい。

○遠藤 立教大学職員の遠藤と申します。高校生の話に関する質問なのですが、高校生が日本語を勉強すればするほど難しく感じるようになるというのは、アニメーションとかを見ているので、聞いたり、話したりする言葉は得意だけれども、文章として書いたりすることが難しいのか、それとも語彙、ボキャブラリーを増やすことが難しいとか、何か特別な難しさがあるのでしょうか。

○スニーラット アニメを見ていて、会話したくなるんですね。それは問題ないと思いますが、でも、N2、N1は、先生もご存じのように、かたい言葉ばかりで、何で勉強しないとイケないのとか、いろいろ疑問を持ってしまいますね。実際に大学を出て、日本企業に入っていったら、習った文型使うのかな。ある程度使っていますけれども、でも、勉強しているときにその実用性を感じない場合もあります。そこで、最近、実習に行きなさい、そういうふうには促しています。

現場で困っていることを実感して、今のわかっている日本語ではまだまだ足りないというようにさせないと、と思っています。アニメとかを見ていて、わかったからもう大丈夫じゃないか、と思うケースも結構あります。

○**遠藤** わかりました。ありがとうございます。

○**丸山** いかがでしょうか。はい、ありがとうございます。

○**長野** 今日はありがとうございました。私は立教大学広報課の長野と申します。全くの素人なので、もしかしたらもう皆さんは既にご存じのことかもしれないのですが、日本語を勉強している子たちの日本への留学の希望は高いということをも今、伺いましたが、第二外国語で一番学習者が多い言語は中国語ということでした。日本語に限らず、どの言語でも、学習している言語圏に留学したいという生徒さんは同じぐらいの比率でいるということでしょうか。

○**スニーラット** つまり留学したい。

○**長野** そうです。中国語の学習者が多いということは、中国への留学希望者も多いということでしょうか。

○**スニーラット** ああ、外国。タイの場合はやはりアメリカとかイギリス、ヨーロッパのほうが、もともと昔からそういうところに留学したい、している人も多いですね。でも最近では、中国、韓国もあります。日本と比べたら割と安いから行きやすいんです。特に中国の孔子学院は一生懸命、ほんとに一生懸命、お金とか出していますから、毎年、いっぱい、いっぱい、留学に行っています。

○**長野** 大学に進学する生徒たちは英語がとても上手なので、第一希望は英語圏、その次が日本や中国、ということになるのでしょうか。

○**スニーラット** そうなんですね。1つは言語の構造にもよりますが、英語、中国語、タイ語はS・V・O、日本語はS・O・V、まず難しい。最後まで聞かないと。

○**長野** わからない。

○**スニーラット** わからないですね。何が言いたいのか。日本語は言語の構造がもともと難しい。中国語はタイ語と割と似ていて、動詞の活用もなくて、ただくっついていくので、勉強したら、ああ簡単だと思えます。文字、漢字一生懸命覚えれば何とかできます。英語の場合は活用がありますけども、でも小学校1年生から勉強しているので、何となくできるんじゃないかと。だからオーストラリアのほうも、ニュージーランドのほうもいっぱい行っています。

- 長野** 日本語学習者でも、留学先の第一希望は英語圏ということでしょうか。
- スニーラット** いえいえ。
- 長野** ということでもない？
- スニーラット** 日本語学習者の場合は、英語できる人も英語できない人もいます。だから英語ができないから日本語を選んでしまうケースもあります。日本語の学科に入ってくる場合は、英語は無理だとか、向いていないとか、そういう学生もいます。
- 長野** わかりました。ありがとうございました。
- 丸山** スニーラット先生、どうもありがとうございました。